

大会競技規則

幼年・小学生・中学生の部

1. 競技方法

- ・ 3 本勝負(2 本先取した者の勝ち)とする。
- ・ 1 本先取後、試合時間終了の時、1 本先取者の優勢勝ちとする。
- ・ 判定により勝敗を決する場合は、次に示す順番により判定する。

①警告の有無 ②試合内容「優勢・劣勢」 ③技能

□試合方法

(1) リーグ戦方式

- ・ 取得本数が同数の場合は引き分けとする。
リーグ戦の順位は以下の順位で判断する。
- ①勝ち数が多いもの ②負け数が少ないもの ③取得本数が多いもの
④取られた本数が少ないもの

以上が同数の場合は再試合を 1 分間の 1 本勝負の延長戦を行う。

さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

再試合がリーグ戦になる場合は、1 分間の 3 本勝負とし、⑤警告の有無を順位の判断材料に加える。

(2) トーナメント戦方式

- ・ 試合時間内に勝敗が決しない時、判定によって勝敗を決する。
- ・ 三位決定戦、決勝戦のみ、試合時間内に勝敗が決しない時、1 分間 1 本勝負の延長戦により勝敗を決する。さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

(3) 3 試合勝負(2 人部門)

- ・ 3 試合勝負とし、先に 2 勝した者を勝者とする。
勝敗が決しない時、最終戦における判定によって勝敗を決する。

2. 試合時間

- ・ 試合時間は、1 分間 30 秒とする。

3. 競技規則

- (1) 小学 4 年生以上は「少年ソフト面」を着装する。顔面への攻撃は全て「空撃」で当てない。男子中学 3 年生のみ「一般面」を着装し、面への直接打撃を必要とする。
全学年共、顔面への蹴り技は横蹴りのみとする。
- (2) 小学 4 年生以上は、股当てをすること。
- (3) 使用できる「少年ソフト面」は、一般社団法人日本拳法競技連盟公認の面、又は大会実行委員会が認めた面とする。
- (4) 負傷及び再発防止のためのサポーター・テーピングの使用を認める。
ただし、肘や膝へのサポーターは綿の入っていないものとする。
- (5) 小学生中学年の部は「少年ソフト面」と股あて着装は任意とする。
- (6) 試合場で呼び出してもいない選手は失格とする。
- (7) 選手参加費未納者、ゼッケン未着装者は失格とする。
- (8) その他は、一般社団法人日本拳法競技連盟競技規則に則って行う。

大会競技規則

高校生・壮年・一般の部

1. 競技方法

- ・ 3 本勝負(2 本先取した者の勝ち)とする。
- ・ 1 本先取後、試合時間終了の時、1 本先取者の優勢勝ちとする。
- ・ 判定により勝敗を決する場合は、次に示す順番により判定する。

①警告の有無 ②試合内容「優勢・劣勢」 ③技能

□試合方法

(1) トーナメント戦方式

- ・ 試合時間内に勝敗が決しない時、1 分間 1 本勝負の延長戦を行う。
- さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。
- ・ 三位決定戦、決勝戦は、試合時間内に勝敗が決しない時、3 分間の 1 本勝負の延長戦により勝敗を決する。さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

(2) リーグ戦方式

- ・ 取得本数が同数の場合は引き分けとする。
- リーグ戦の順位は以下の順位で判断する。
- ①勝ち数が多いもの ②負け数が少ないもの ③取得本数が多いもの
 - ④取られた本数が少ないもの
- 以上が同数の場合は再試合を 2 分間の 1 本勝負の延長戦を行う。
- さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。
- 再試合がリーグ戦になる場合は、2 分間の 3 本勝負とし、⑤警告の有無を順位の判断材料に加える。

(3) 3 試合勝負(2 人部門)

- ・ 3 試合勝負とし、先に 2 勝した者を勝者とする。
- 勝敗が決しない時、最終戦における判定によって勝敗を決する。

2. 試合時間

- ・ 試合時間は 2 分間とする。
- ただし、一般男子(有段)の試合時間は 3 分間とする。

3. 競技規則

- (1) 負傷及び再発防止のためのサポーター・テーピングの使用を認める。
ただし、肘や膝へのサポーターは綿の入っていないものとする。
- (2) 試合場で呼び出してもいない選手は失格とする。
- (3) 選手参加費未納者、ゼッケン未着装者は失格とする。
- (4) その他は、一般社団法人日本拳法競技連盟競技規則に則って行う。